

2020年10月14日 卓話 《米山月間にちなんで》

米山奨学生 エータンダーナイン

大阪観光大学のエータンダーナインと申します。去年から当クラブの奨学生になり、大変お世話になっております。この度は「日本に留学して驚いたこと」についてお話いたします。主に、日本留学で驚いたことと継続奨学生として、これから～という内容で話いたします。

まず、ミャンマーの八曜日について説明いたします。皆さんは自分の誕生日は知らない人は居ませんか？誕生日は気にしたことはありますか？

ミャンマーでは誕生日より誕生曜日が重視されます。生まれた誕生曜日で名づけられ、性格や相性なども分かると言われています。八曜日というのは水曜日を午後と午前分けての考え方であり、各曜日にそれぞれ守護動物を持ちます。

日本留学で驚いたこと

文化的景観、生活習慣が異なる日本とミャンマーの食文化に共通する点があることに驚きました。4つの食べ物を紹介しますが、ここではその中の「お茶文化」について詳しく話いたします。日本のおもてなしに欠かせない茶文化はミャンマーにも同じくお茶でもてなす文化があります。飲むお茶のほか食べるお茶があります。お茶の葉っぱを発酵させ、野菜(トマトと千切りキャベツを主に使用)と揚げた豆と一緒に混ぜてサラダ風に食べることです。お茶を飲みながら、お茶を食べることになります。

継続奨学生として、これから

奨学生になって、毎月例会に参加し、カウンセラーさんとの交流、クラブ内のロータリアンたちとのコミュニケーションを取りながら身近で日本の文化を学ぶことができます。去年はだんじり祭りの試験日に実際にだんじりを引っ張って走るという体験を経験しました。一人だったらできないかもしれませんが、みんなと力合わせて物事を実現させる日本人の精神が素敵だと思う一日でした。翌日は筋肉痛になるなど大変だったが、普段体験できないことだったので、うれしく思っています。

これからは、残り少ない学生生活を充実させたいと考えます。卒業後、日本の企業で就職し、社会人としてのマナーや仕事の知識や技術を身に付けたいと思います。将来はミャンマーに帰って日本で学んだ知識を活かせ、自分自身もロータリアンになることを目指します。最後に、この場を借りて、全国にいるロータリアンの皆様と当クラブのロータリアンの皆様に心からの感謝の気持ちを申し上げます。